

シー・エス C・S みやいけ

E-mail:info@miyaike-e.ed.jp



修学旅行

「ONE MIYAIKE(ワン みやいけ)」=「ONE TEAM(ワン チーム)」



第2回学校運営協議会

10月24日(木)、第2回学校運営協議会を開催しました。本年度から導入されたコミュニティ・スクール制度の前半の取組を振り返るとともに、今後に向けた活動について、宮小を支える学校運営協議会を構成するPTA・応援団・教職員・地域住民がONE TEAMとして意見交換をしました。

主な内容は以下のとおりです。

<その1 サポート活動として>

子どもたちのために、たくさんの人たちがサポート活動をしてくださっています。本協議会も、PTAや応援団の皆さん、先生方との連携・協働のもとで、子どもたちの成長を支える一端を担えればとの思いで取り組んでいます。

新1年生の下校サポートや3年生の校区探検、なわとび練習台作製、除草作業、PTAふれあいバザー、成岩中学校と連携したサポートなど・・・、楽しく活動しています。今後も、本音で話し合いながら活動していきたいと思っています。

<その2 日常的な活動として>

日常的な情報交換や活動計画などを話し合う場として、「CS(Community・Schoolの略)サロン」とネーミングした会をスタートさせ、毎週火曜日にコミュニティ・ルーム(和室)において、これまでに12回開催しました。この内、学習会を2回、除草作業を2回行いました。

学習会は、日頃、感じている疑問などに対し、市教委や社会福祉協議会、民生児童委員など、専門的な立場、指導的な立場で実践されている方を講師としてお招きし学び合いました。学習会の内容については、本号3ページで紹介させていただきます。

CSサロンは、学校とのタイムリーな情報交換を意図した会なので平日開催にしています。当然、参加が難しい方が多いことは承知しています。「決して無理せず、都合がつけば参加」また、「どなたでも参加歓迎」という会ですので、今後も継続していきます。

<その3 情報発信として>

上記のような取組の情報発信として、「C・Sみやいけ(Community・School通信)」を4回発行しました。子どもたちの様子や地域のことなど、互いによく理解し合うことが「地域とともにある学校」としての第一歩です。通信の他にも、校長先生による宮小ホームページは、ほぼ毎日更新され、連日1,000件以上のアクセスがあり、現在のカウンターは125万を超えているそうです。これからも、情報発信に努めていきます。

児童会と学校運営協議会との懇談会

初めての試みとして、宮池小児童会役員と学校運営協議会委員との懇談会を開催しました。

日頃、大人同士の話し合いはあるものの、子どもたちと直に対話する機会はありません。そんな中で、子どもたちは、「どんな学校にしたいのか」「学校や地域に何を望んでいるのか」…率直な声を聴きたいとの思いで開催しました。7名の児童会役員一人一人の使命感と情熱溢れる発言に感動の連続でした。



児童会との懇談会

以下は、懇談の一部です。

○ 児童会役員に立候補した動機

☆ 「あろは運動(「あ」:あいさつは大きな声で自分から「ろ」:ろうか右側を静かに歩く「は」:はきものは心を整え美しく)」を盛り上げて、元気いっぱいの宮小にしたい!

☆ いじめがなく、みんなが楽しく触れ合える笑顔いっぱいの宮小にしたい!

☆ 登校しづらい友達に、「学校は楽しいところだよ」と思ってもらえるような優しさいっぱいの宮小にしたい!

○ 学校運営協議会と一緒に取り組みたいこと

☆ 台風19号の被災地支援の募金活動に取り組みたい!

☆ 昔の遊びや戦争の話、防災、命の大切さなど、地域の体験者の方から学べる機会をつくってほしい!

☆ 地域の一員として、ボランティア活動に参加したい!…などなど

「みんなが、安心して楽しく通える学校にしたい」、「地域の人たちと一緒に取り組みたい」…など、様々な意見に対して、協議会委員からも、子どもたちと大人のつながりの大切さを意識した発言がたくさんありました。子どもたちの提案や希望に応えられる学校運営協議会でありたいという思いを強くした懇談会でした。

CSサロン学習会

10月15日、前回の「学校や社会に馴染めない子どもや大人との接し方」に引き続き、第2弾として「支援が必要な子に、どう寄り添えばいいのか」をテーマに学習会を開催しました。

CSサロンでの情報交換の折に、「町で、ちょっと気になる様子の子(青少年)を見かけたけど、どう声を掛けていいのかわからなくて…」という話がありました。



CSサロン学習会(第2弾)

地域社会のつながりが希薄になりつつある中で、問題意識を持っていても、どう行動すればいいのかわからないというのが現実です。

全国的な状況でも、少子化の進行にも関わらず、小中学生の不登校数は増加の一途(16万人)です。また、義務教育終了後の若者と呼ばれる世代(35歳未満)のニートやフリーターは合わせて250万人、ひきこもり70万人とも報道されています。家庭においても、核家族化や子育て情報の氾濫など、社会の急激な変化の中で、子育てに自信を持ってない親が増えているという状況があります。

半田市も例外ではなく、特に、不登校の現状は大きな課題です。

支援が必要な子どもや家庭に対して、地域として何をすればいいのか、どう寄り添えばいいのか、それぞれの立場でどう連携すればいいのか、学び合う機会が必要だとの思いが、こうした学習会の背景にあります。

講師の皆さんからは、「目から鱗(うろこ)」の如く、具体的な事例をもとに、説得力のある貴重なご示唆をいただきました。

「すべての子ども・若者が、一度きりの人生を自分らしく、よりよく生きていくために必要な力を身に付け、自立していくために、学校・家庭・地域・行政などのパートナーシップの確立は不可欠…」、「家族・先生・地域住民みんなが、子どもたちのよき理解者となり、何でも相談できるという信頼感が自分だけの殻に閉じ籠もる状況を打破できる…」、「相談体制の充実や、地域との協働、社会に開かれた教育課程の実践など、子どもたちが豊かな学びを通して安心して通える学校、安心して生活できる地域を創っていくことが、元気いっぱい・笑顔いっぱい・優しさいっばいに成長する子どもを育てていくことにつながる…」など。

コミュニティ・スクールとして、また、地域住民の一員として何ができるのか、継続して勉強していきたいと思えます。

協和区の区民展に、宮小から初出展！

10月13日(日)、協和公民館で「第39回協和区民展」が開催されました。台風19号の接近で、前日の12日(土)は中止になり、1日のみの区民展になりました。

毎年、協和公民館を中心に活動しておられる地域の皆さんの素晴らしい作品が出展されています。今回、協和区在住の宮池小学校5年生と6年生の書写作品が出展されました。これまでは、西成岩区や成岩四区の区民展には、毎年、出展されていましたが、協和区では初めてのことです。9月の敬老会でも、ビデオレターを送るなど、地域の行事に積極的に参加・協力する姿勢に、協和区の方たちにたいへん喜んでいただきました。

自分たちが住む地域に関心を持つことは、地域に愛着を感じることに繋がり、将来、地域を担っていくという自覚に繋がっていくと思います。素晴らしいことだと思います。



村上校長先生も来てくれました



親子での来館者が増えました

任坊山公園の整備、完成間近！ 楽しみです

10月21日(月)、成岩公民館で開催された半田市「市政懇談会」に出席しました。榊原市長さんから、現在工事中の任坊山公園(宮池エリア)について、「自然散策ゾーン」「親水観察ゾーン」「健康づくりゾーン」からなる、自然を感じ、健康を育む公園として、来年3月末に完成というお話がありました。宮小にとって、素晴らしい教育環境になると思います。

今後の予定

- 宮池学習発表会 11月9日(土) 8:40～11:25

当日、児童会の呼びかけで、台風19号の被災地支援の募金活動に取り組みます。ご協力をお願いします。

- あいさつごんごん運動 11月12日(火)8:00～8:15

児童会、PTAのみなさんと東西門であいさつ運動に参加します。